

第4次地震被害想定(第一次報告)のポイント ～自然災害、建物被害、人的被害～ ◇磐田市◇

被害想定目的

東日本大震災等の教訓を活かし、レベル1・レベル2の地震、津波を想定し、今後の地震・津波対策の基礎資料として活用

- レベル1の地震・津波：発生頻度が比較的高く（駿河・南海トラフでは約100～150年に1回）、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波
- レベル2の地震・津波：発生頻度はきわめて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波

想定対象地震

区分	内容
レベル1の地震・津波	東海地震 東海・南海地震 東海・東南海・南海地震 (マグニチュード8.0～8.7)
レベル2の地震・津波	南海トラフ巨大地震 (マグニチュード9程度)

【参考】
第3次地震被害想定の対象地震は、マグニチュード8.0の東海地震である。

想定的前提条件等

区分	前提条件等
建物数	約60,600棟（うち住宅約51,000棟）
人口	約168,600人（平成22年国勢調査）
想定シーン	「冬・深夜」、「夏・昼」、「冬・夕方」
地震予知	駿河・南海トラフ沿いで発生する地震については、「予知なし」・「予知あり」
地盤モデル	ボーリングデータ等を活用し、精緻化
地形モデル	2級河川の測量成果等を活用し、精緻化
堤防データ	施設台帳等を活用し、精緻化
想定手法	国の想定手法等最新の科学的知見を採用
建物・人的被害	市町単位で推計
津波避難行動	早期避難率の相違及び津波避難ビルの活用を考慮

駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震

1. レベル1の地震・津波

- 地震動 ... 震度7～6強の地域が増加
震度7の地域 45.4km²（3次想定 8.5km²）
震度6強の地域 106.7km²（3次想定 54.4km²）
- 津波 ... 浸水深2m以上の地域が増加
浸水面積 1.3km²（3次想定 1.5km²）
浸水深2m以上の面積 0.4km²（3次想定 0.3km²）
- 建物被害（冬・夕・予知なしの場合） ... 大幅に増加
全壊焼失棟数 約18,000棟（3次想定 約5,900棟）
うち地震動・液状化 約13,000棟（3次想定 約5,300棟）
- 人的被害（冬・深夜・早期避難率低、予知なしの場合） ... 大幅に増加
死者数 約500人（3次想定 約240人）
うち津波 10人（3次想定 0人）
うち火災 100人（3次想定 10人）※冬・夕

駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震

2. レベル2の地震・津波

- 地震動 ... 基本、陸側、東側のケースにより震度分布が変動
震度7の地域 45.4～136.6km²（3次想定 8.5km²）
震度6強の地域 24.9～110.8km²（3次想定 54.4km²）
- 津波 ... 浸水深2m以上の地域が増加
浸水面積 16.1km²（3次想定 1.5km²）
浸水深2m以上の面積 4.8km²（3次想定 0.3km²）
- 建物被害（陸側・冬・夕・予知なしの場合） ... 大幅に増加
全壊焼失棟数 約27,000棟（3次想定 約5,900棟）
うち地震動・液状化 約20,000棟（3次想定 約5,300棟）
- 人的被害（冬・深夜・早期避難率低、予知なしの場合） ... 大幅に増加
死者数 約1,900人（3次想定 約240人）
※津波最大 約1,200人（東側・夏・昼、早期避難率低、予知なしの場合）

内閣府の南海トラフ巨大地震の強震断層モデル



